

## 賢 愚 愚 想

### 私の還暦からの人生

今から18年前、私が56才の時に主人が定年を迎え彼は自由を手に入れました。その時私もサラリーマンの妻としての定年を得、ある種の自由を手にしたのです。主人は定年の勢で“男の料理教室”に通いだし、これはしめたと思いました。後にこれは期待はずれになってしまうのですが…。そうこうしているうちに私も60才を迎え還暦となりました。

とたんに地域の老人会からお誘いが来たのです。60才ですから当然といえば当然ですが自分では思ってもみなかった事でしたので「まだちょっと私は…」などとうやむやにお断りしたのです。それからしばらくして今度は老人のコーラスの指導を頼まれたのです。

私自身小学生の頃からコーラスに親しみ、少しのブランクはあったもののこの年迄続けている趣味の一つです。そのコーラスはメンバーのお一人の三味線伴奏で数人で歌っておられました。ビックリです。当然曲は限られてきます。しかしそれを指導してほしいとの依頼ですから私も四苦八苦しながら三味線譜を音譜に起しピアノ伴奏もつけてなんとか歌って頂きました。

区の老人会のステージでも何回か歌いました。三味線とピアノ伴奏のコーラスは不思議だったと思います。しかし段々歌う曲も増えピアノ伴奏だけにな

りました。曲は昔なつかしい唱歌や叙情歌、童謡などですので皆さん知っている曲がほとんどです。

歌が好きな方なら誰でもOKという会にしていたので会員も増えていきます。老人の会ですから今迄歌った事はないが歌ってみたいという人がほとんどです。色々な声、音程も合わない人もいます。しかし、こちらの指導にとても素直に反応されるのです。これは感動します。

老人はとかく頑固になりやすいといわれますが歌っている時は違うようです。そして「楽しい、元気になる」などといわれると少しは社会に還元出来ているのかなと思うのです。

60才を過ぎた頃から社会に何か還元をと思うようになりました。保護司を拝命したのは昭和63年でした。これはPTAの役員や地域のボランティア活動からの繋がりでした。

この事が一主婦だけの狭い範囲で動いていた私に少し社会への扉を開き人間関係を広げてくれました。色々な経験をさせていただきありがたい事です。

そしてコーラスは今では二部合唱が出来、中島みゆきの「時代」や新沼謙治の「ふるさとは今もかわらず」など年配の方にはかなり難しいリズムの曲もこなし平均年齢80才近いコーラス団が老人施設訪問で声高らかに歌っています。

東港区保護司会 会長 山田 シヅ子